

予

三年

画数 4
筆順 マ ヌ 予
オン ヨ
クン

成り立ち



おりものをおる時、たて糸の間をくぐってよこ糸をおすのにつかう「杼(ひ)」の形をあらわした字で、杼の本字です。杼が糸をひっぱってすすむので、「先ぶれ」のいみにつかわれるようになりました。【例】予感、予告。

また、「前もって(あらかじめ)する」といういみにつかわれます。【例】予言、予報、予防。

「予」が「杼」のいみよりも「先ぶれ」や「あらかじめ」のいみにつかわれるようになりましたので、「予」に「木」をくわえて「杼」という字が作られました。

〔旧字体は「豫」。巨象のことをあらわした字である。動作がゆったりしているの、ゆったりしていることを、「猶豫(猶 豫のごとし)」と言った。それから「あらかじめする」という意味に使われるようになった。〕

羊

三年

画数 6
筆順 ヌ 三 羊
オン ヨウ
クン ひつじ

成り立ち



ひつじの頭の形をあらわした字です。

「ひつじ」をあらわした字です。

羊は、毛がうつくしく、りっぱなので、「うつくしい(美しい)」「よい(善い)」などのことをあらわすのにつかわれています。美(3年 403)、善(6年 639)。

また、「やしなう」(養 4 631)という字にも使われています。

使い方

▽どんな学習でも、予習してあると、先生のお話がよくなかって、学習が楽しくなります。

▽三日に本が売り出されると予告されていましたので予約しておきました。

熟語例

▽予習(学校で学習する前に、あらかじめ学習しておくこと。教わる前に自習すること。)

▽予告(前もって告げること。あらかじめ知らせておくこと。【例】番組の予告、映画の予告編)

▽予約(あらかじめ約束すること。本が売り出されたらきつと買うから本をとっておくようにと約束することなどのことです。)

▽予感(前もってなんとなく感ずること。例えば「うまくなりそうだ」とか「しつぱいしそうだ」とか感ずること。)

▽予想(前もって「こうなるだろう」というように想像すること。見こみをつけること。)

▽予知(しょうらいおこることを、前もって、知ること。【例】地震の予知)

使い方

▽羊の毛からは羊毛がとれます。羊毛をつむいで毛糸を作ります。毛糸はさまざまな色にそめられて、毛織物の材料になります。今は化学繊維がいろいろ発明されていますが、羊毛でできたセーターやカーディガンなどは、それにくらべて、上等な品物といわれています。

▽「羊頭をかかげて狗肉を売る」という言葉があります。むかしは羊はおいしい肉の代表でした。看板がわりに羊の頭を店先につるしていて、売る時には犬の肉を(狗肉)を売る、といういみです。そこで、うまいことを言っって人をだますことを、「羊頭狗肉」といいます。

熟語例

▽羊毛(羊の毛。毛糸や毛織物の原料となります。)

▽牧羊(羊を飼うこと。また、牧場の羊のこと。)

▽羊皮紙(羊の皮をなめして作った紙。むかし、西洋では、大切なことを書きしるす時に、このじょうぶな羊皮紙をつかいました。)